

こどもエコクラブ 活動報告集2012



5月の烏海山



秋田県

秋田県の環境に関する マスコットを紹介します



スギッチ

「スギッチ」は、秋田わか杉国体・秋田わか杉大会で大活躍をした後、秋田県のマスコットとして県職員になり、秋田県のPRや県政の広報、県民の元気を応援する活動をしています。秋田県マスコットとしての活動が認められ、2008年12月には主任に昇任しました。



森っち

秋田県水と緑のマスコットです。“森の友だち” という意味から「森っち」と命名しました。天然秋田スギの周りにつどい、ともに手を取り合い、身近な自然の中で「命の大切さ」を実感しているようすを表現しています。



あすぴー

地球温暖化防止を県民総参加で推進するためのマスコットキャラクターです。これをみたら「温暖化、なんとかしなくっちゃ!」と思って、具体的な行動・活動に結びつけていきましょう。あ:「あ」きた, す:ストップ・ザ・温暖化, ぴー:「ピー」ブル, みんなで!。秋田(AKITA)の「A」の擬人化をモチーフに、地球温暖化防止のために地球を抱きかかえ冷やしている姿をデザインしています。



クリンちゃん

秋田県の環境美化のマスコットです。星やハートなどの3つのマークは「花(ハート)・緑(葉)・夢(星)」を図案化したもので、これらのマークを人(私たち)が広げた両腕の中に抱える構図となっています。広げた両腕から飛び出そうとするマークは、私たち自らの手で美化に取り組むことにより、未来に向かって秋田県の環境が向上していくことをイメージしています。



住民のみなさんが「大切な八郎湖をきれいな湖にしていこう」と取り組んでいるさまざまな活動のシンボルとなっています。パンフレット等に登場しますが、名前はありません。「八郎太郎伝説」で、八郎湯に住んでいたと言われる「龍」をモチーフにしている、地元の小学生から寄せられたイラストを基に誕生しました。



平成7年度からスタートした「こどもエコクラブ」は、平成24年度で17年をむかえました。平成24年度は62のクラブが登録し、3,990人(平成25年2月28日現在)の子どもたちが環境に関わるいろいろな活動を行いました。

この冊子は、各こどもエコクラブから今年度行った活動について報告をいただき、それらをまとめたものです。報告には、みなさんの今後の活動の参考となるところがたくさんあります。これからの活動がさらに広く深くなるための手助けになれば幸いです。また、各学校におかれましても、様々な学習の時間などに活用されることを期待しています。



目 次

こどもエコクラブってなに？

4

みんなが応援しています！

5

こどもエコクラブ活動報告

土崎児童館（秋田市）	6
保戸野児童館まめまめ隊（秋田市）	6
旭北児童館こどもエコクラブ（秋田市）	7
あきたみどりフレンド（秋田市）	7
ハッピー☆ハッピー（秋田市）	8
ひろおもてエコクラブ（秋田市）	8
若駒学童クラブ（秋田市）	9
マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ（秋田市）	9
イオン土崎港店チアーズクラブ カモメ（秋田市）	10
たしろこどもエコクラブ（大館市立たしろ保育園）	10
どれみ保育園エコクラブ（大仙市 どれみ保育園）	11
ちびっこエコレンジャー イースト！（大仙市 大曲東保育園）	11
せいれいエコクラブ（秋田市 聖霊幼稚園）	12
第二ルンビニ園ちびっこクラブ（秋田市 第二ルンビニ園）	12
藤里小エコクラブ（藤里町立藤里小学校）	13
五里合小4年エコクラブ（男鹿市立五里合小学校）	13
浜田小エコクラブ（秋田市立浜田小学校）	14
戸島小学校エコクラブ（秋田市立戸島小学校）	14
飯田川小学校エコクラブ（潟上市立飯田川小学校）	15
大曲小学校自然大発見クラブ（大仙市立大曲小学校）	15
角間川小学校エコクラブ（大仙市立角間川小学校）	16
雄物川北小学校エコクラブ（横手市立雄物川北小学校）	16
横堀小学校ネイチャークラブ（湯沢市立横堀小学校）	17
岩見三内小・中学校エコクラブ（秋田市立岩見三内小・中学校）	17
秋田東中学校科学部（秋田市立秋田東中学校）	18
附属中学校情報・科学部（秋田大学教育文化学部附属中学校）	18
美郷中学校総合的な学習の時間「成瀬川水質調査班」（美郷町立美郷中学校）	19
鳳中学校科学部（横手市立鳳中学校）	19

こどもエコクラブ活動重点支援校活動報告

雪沢小学校こどもエコクラブ（大館市立雪沢小学校）	20
花岡小エコクラブ（大館市立花岡小学校）	20
鷹巣南小学校エコクラブ（北秋田市立鷹巣南小学校）	21
合川小学校エコクラブ（北秋田市立合川小学校）	21
能代市立第四小学校4年エコキッズ（能代市立第四小学校）	22
いずみっこエコクラブ（秋田市立泉小学校）	22
桜小学校こどもエコクラブ（秋田市立桜小学校）	23
五城目小学校エコクラブ（五城目町立五城目小学校）	23
井川小学校自然観察クラブ（井川町立井川小学校）	24
西目小学校シーガルエコクラブ（由利本荘市立西目小学校）	24
「みどりの小道」について	25
直根小学校エコクラブ（由利本荘市立直根小学校）	26
東由利小学校エコクラブ（由利本荘市立東由利小学校）	26
平沢小サイエンスクラブ（にかほ市立平沢小学校）	27
山内小学校5年エコクラブ（横手市立山内小学校）	27
角館中学校科学部（仙北市立角館中学校）	28
増田中学校（横手市立増田中学校）	28

かべしんぶん 29

「環境の達人」を派遣しています 30

こどもエコクラブ交流会 32

平成24年度に環境分野で受賞した学校を紹介します 33

平成24年度登録クラブ一覧 34

付録（登録用紙新規） 36



こどもエコクラブってなに？

こどもエコクラブは、幼児から高校生まで、だれでも参加できる環境活動のクラブです。
平成24年度は、全国で2,353クラブ、116,924人（平成25年2月28日現在）のこども達が参加し、活動しました。

- 主な活動は「**エコロジカルあくしょん**」「**エコロジカルとれーにんぐ**」の二つです。

エコロジカルあくしょん

各クラブが自主的に行う活動で、ゴミ探検、水生生物調査、自然観察、リサイクル活動など、環境に関することなら何でも「あくしょん」になります。

エコロジカルとれーにんぐ

ウェブサイトで紹介されるもので、毎日の生活の中で地球や環境のことを楽しく考えるプログラムです。

- クラブの会期は特に定めません。いつでも登録して活動が始められます。
- メンバーになると、全国事務局から、活動に役立つツールの「活動記録シート（エコログ）」が届きます。また、みんなの活動や環境についてのいろいろな情報がのっている「ニュースレター（JEC プレス）」（不定期）も届きます。
- 自分たちの活動報告をウェブサイトに掲載し（非掲載の選択も可）、多くの仲間に伝えることができます。お互いのクラブ同士の交流を深め、活動の幅を広げることができます。
- 活動を報告すると、全国事務局から、アーススタンプがもらえます。スタンプを5個集めると、「アースレンジャー認定証」が授与されます。また、継続すると3年で銀バッジ、6年で金バッジがもらえます。
- メンバーになるには、すでに登録されているクラブのメンバーになってもいいですし、仲間を集めて新しいクラブをつくってもOKです。こどもエコクラブ全国事務局への登録は無料です。



金・銀バッジ



アースレンジャー認定証

【こどもエコクラブのつくり方】

仲間を集めます

1人から30人くらいまでの仲間を集めます。

サポーターを決めます

クラブ活動を支えてくれる大人のサポーターを決めます。

登録します

こどもエコクラブ全国事務局に届けば、クラブとして登録されます。

問い合わせ先

- ・財団法人日本環境協会 こどもエコクラブ全国事務局 … ☎03-5643-6251
こどもエコクラブウェブサイト <http://www.j-ecoclub.jp>
- ・秋田県生活環境部環境管理課 …………… ☎018-860-1571

みんなが応援しています!

こどもエコクラブの活動を、県やこどもエコクラブ全国事務局などが応援しています。

秋 田 県 か ら

● バンダナの提供

会員の活動意欲と会員同士の連帯感を高めるために、新規会員にこどもエコクラブのバンダナを提供します。

● 活動報告集の作成・配付

こどもエコクラブ活動の情報交換のため、その年度の活動をとりまとめた活動報告集（本冊子）を作成・配付します。



● 環境調査活動を行う際の機材の提供や講師の派遣

小・中学校で、酸性雨調査、水生生物による水質判定、パックテストによる河川湖沼の水質調査等、環境調査活動を行う際の機材を提供します。

また、調査器具や薬品の扱い方や判定方法などについて、専門的な話ができる講師も派遣します。

● 環境学習リーダー研修会の開催

大気や水質の調査方法や自然観察について、指導者（サポーター）を対象とした研修会を実施します。

● 環境学習会等への講師の派遣（「環境の達人」）

学校や各種団体が主催する環境学習会や研修会等へ、環境カウンセラーなどの講師を派遣します。（30ページにも記事があります。）

● こども環境劇の上演

劇団にお願いして、環境を題材にした劇「こども環境劇」を県北・中央・県南のホールを借りて上演します。ミュージカルですので、誰でも楽しむことができます。

こ ども エ コ ク ラ ブ 全 国 事 務 局 か ら

● こどもエコクラブ全国フェスティバルへの参加

1年間の活動内容をまとめた壁新聞の募集に応募した県内のクラブの中から、1つのクラブが選ばれ、こどもエコクラブ全国フェスティバルに参加します。

今年度は、秋田市の「ひろおもてエコクラブ」が、3月24日早稲田大学で開催される「こどもエコクラブ全国フェスティバル2013」に参加し、全国から集まった人達と交流しました。

● こどもエコクラブパートナーシッププログラム

民間企業や財団による環境活動に関する資料や環境活動プログラムの提供などを行っています。詳しくは、こどもエコクラブ全国事務局のホームページをご覧ください。

こどもエコクラブウェブサイト：<http://www.j-ecoclub.jp>



土崎児童館

秋田市

港まつりで知られる土崎地区に位置する土崎児童館では、おまつりの時期になると、毎年、地域の方々がダンボール箱で太鼓を作ってください、子どもたちは広告の紙で「ばち」作りをすることが恒例になっています。“みなとっ子”たちは一斉に太鼓をたたき、“港魂”で盛り上がり、館内は太鼓の音が響き渡ります。

今年の夏はゴーヤでみどりのカーテンに挑戦しました。来館する児童のおじいさんが植えてくださり、夏休み中は子どもたちが水やりにも精を出して楽しみながら活動しました。

そして、ペットボトルを利用して風鈴作りも行いました。思い思いに描いた風鈴を「どこに飾ろうかな」と考えながらの作業も楽しく出来上がりました。

冬にもエコを意識する身近な活動を取り入れて、節水、節電、リサイクルなどを子どもたちに考えさせながら習慣化していきたいと思えます。



保田野児童館まめまめ隊

秋田市

昨年につづき、4月に隊員を募集したところ、入学したばかりのかわいい1年生や「また挑戦するぞ」という2年目の心強い仲間が、たくさん集まってくれました。

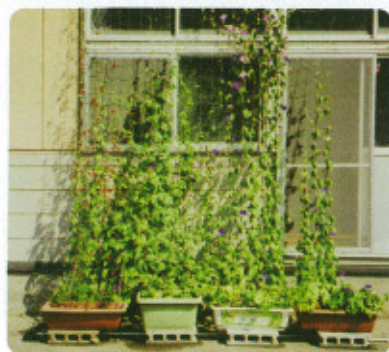
今年のテーマは「みどりのカーテン。ゴーヤに挑戦！」です。育成クラブや地域の方々の協力のもと、プランターにゴーヤの苗を植えました。花だんには、枝豆やトマト、大葉やきゅうりなど植えました。まめまめ隊の活動を知ったNPO法人環境あきた県民フォーラムの取材もうけ、インタビューされたり、写真を撮ってもらったりとみんな張り切って活動をつづけました。

初めて土をいじったり種をまいたり、水を入れすぎて重くなったジョウロにふらつきながらも全員で「収穫」という目標を持ち、がんばりました。天候にも恵まれて作物は、どんどん成長して、大豊作でした。



まめまめ隊活動のしめくくりは、枝豆の収穫です。もぎたての豆をゆでもらい、みんなでおいしくいただきました。さやには、大粒の豆が3つも入っていました。子どもたちの会話をきいていると「ミニトマト、おいしかったね！」「黄色のが好き」「赤いのもいい！」「ゴーヤは、ちょっと無理・・・」「え～～！おいしいよ」「お母さん、お弁当に入れた」など楽しいおしゃべりは、つきません。少しでも食べ物に関心を持ってもらえる経験になったのかな？ また来年もみんなで活動したいと思います。みんな集まってね。





昨年初めて挑戦したグリーンカーテンを、今年の夏も…とゴーヤとアサガオを植え、カーテン作りが始まりました。

苗植え、水やりには児童館の子どもたちも大はりきりでした。ところが、ゴーヤのつるがのび始めた頃、害虫がつき、あれこれ手をつくしたのですが、ゴーヤが全滅したのです。

もう苗を手に入れるにも時季が遅く、今年は、アサガオのグリーンカーテンだけと、あきらめていた所、偶然にもゴーヤの苗を頂けることになり、子どもたちががっかりしたり、大喜びしたりして活動開始となりました。チョウセンアサガオも仲間入りして、花と緑のグリーンカーテンが出来るのを楽しみにしました。

夏の猛暑の中、水やりは大人気でしたが、プランター植えのため、朝夕の水やりが欠かせない事となり、それでもしおれてくる日中は、子どもたちも心配顔でした。花が咲き始めると、迎えに来る父兄にも好評で、実ったゴーヤを育成クラブの方に差し上げたところステキな絵手紙がたくさん届きました。畑では、トマト、きゅうり、さつまいもが成長し草取り、水やり、追肥など、子どもたちは大活躍でした。さつまいもを掘り、食べる時には、本当に小さいものも大事そうに食べていました。自分たちで育てたものは特別なのでしょう。

児童館では、他にもエコ工作や自然のものを利用した工作を今年も多く取り入れました。地域の方、旭北小学校の先生方からもご協力いただき、本当にありがたく思います。来年度も、子どもたちと共に自分たちができるエコ活動を考えていきたいと思っています。



平成24年度のこどもエコ学習は身近にある自然の素材を活用し、世界に一つのオリジナル作品の製作で、夏休みの工作の課題に挑戦しました。

今年で4回目を迎え、初回からの効果もあり、回を重ねるごとに子どもたちの関心も深まり、保護者もこどものエコ学習を通して、理解して頂けるようになりました。

エコ学習の大切さと今の環境と資源を考える親子総合学習の機会でもありました。

秋田県民塾修了の「あきたエコマイスター県央協議会」の支援を得て開催され、参加費は無料で実施され、環境保全や省エネの実践で子供の自由な発想とやり遂げる達成感に喜びを求める事に努めました。

秋田市とその周辺の小学生など37名、保護者、見学者38名エコマイ関係者8名、見学者23名 計106名の大きなイベントとなりました。

工作別参加割合は、木の実で飾り物36%、流木活用38%、廃材利用は26%で自分で考えるエコの自然資源リサイクル完成作品で、自分だけの宝物は多くの人々の感動を呼びました。





エコの輪 広めたい

ハッピーハッピーは、小学6年生と小学4年生の姉妹と環境カウンセラーの母がサポーターとして支援していることもエコクラブです。結成して6年目になります。

自宅のできるエコ活動や地域の勉強会に参加したりすることが多いのですが、毎年夏休み中に開催される宿泊研修をとっても楽しみにしています。この研修に参加すると、県内いろいろな学校やエコクラブで頑張っている人たちとの交流ができます。頑張っている人から刺激を受けます。“あんなふうに頑張りたいなあ”と思うような人を見つけることもあります。

今年初めて学校にこの研修会に参加したことを報告しました。クラスメイトや担任の先生などが興味を持って聞いてくれました。学校にはエコクラブはありませんが、少しずつお友達や先生を誘って、エコの輪を自分の近くから広めていきたいと思います。



私たちは、1年生から6年生まで合計17名で、秋田市広面地区を中心に活動しています。今年の活動で好評だったのは、初夏の秋田市仁別国民の森での水辺の観察と秋の秋田市河辺のプラザクリプトンでの自然観察でした。

水辺の観察は、皆で木々に囲まれた川に入り、冷たい水、川の流れの音など五感を意識して自然を体験しました。また川の石をひっくり返したりして、真剣に時に大騒ぎしながら水生生物を探しました。さらに併せて行った水質調査は、低学年も緊張した面持ちで器具を扱うなど、日ごろの活動とはひと味違う体験をした1日でした。



一方秋の自然観察では、自然観察指導員の方から説明を受けながら林を散策し、木々を使ったクラフトも行いました。また、ちょうど林にはツリーハウスがあり、そこに登りいつもと違う高さの眺めに興奮し、最後は鬼ごっこで林の広場を走り回ったりするなど、自然の中で自由に過ごしました。

私たちは、身近な生活の場と、ちょっと遠出しての活動の場とを組み合わせ、様々な体験ができるように活動しています。そうすることで、最近子供たちが実感することが少なくなった自然の良さを一つでも感じられ、環境を大切に生活できるようにしてほしいと活動しています。



若駒学童クラブは、現在1年生8名、2年生15名、3年生6名、4年生5名、6年生5名の計39名で活動しています。今年度は、外での活動として12月に、公園の掃除を行いました。1年間の感謝を込めて、空きカンやペットボトル、燃えるゴミなど細かくゴミを分別しました。掃除終了後は、みんなできれいになった公園で思いっきり遊びました。工作は、3つ製作しました。1つ目は、4月にこいのぼりの制作をしました。段ボールで作った大きなこいのぼりの中に、子供たちが画用紙に思い思いの模様や柄を描いた小さなこいのぼりを貼り付け、1つの作品に仕上げました。2つ目は、夏の壁面制作です。海をイメージし、海藻や魚はもちろん、エアパッキンを使い海の中の様子をリアルに表現しました。海藻や魚は画用紙を使い、子供たちに色塗りや模様を描いて貰(もら)いました。飾り終わった後は、魚を使い今度は魚釣り大会をして遊びました。大きな池はダンボールで作り、釣り竿(ざお)はラップの芯と麻糸、磁石を使い、魚にクリップを付けました。みんなで競争したり、学年に関係なく楽しく遊ぶ事ができました。3つ目は毎年恒例になった年賀状です。牛乳パックで作ったハガキを使い、今年も個性豊かな年賀状がご家族の元に届きました。保護者の方より、「毎年楽しみで額に入れて飾ってあります。」の言葉を頂き、本当に嬉(うれ)しく思いました。最後に今年1月に外部の講師をお招きして、エコ講座とキャンドル作りをしていただきました。エコ講座では紙芝居(もったいないおばあさん)の読み聞かせやエコクイズ、エコに関するお話をいっぱいいただきました。子供たちも真剣に話を聞き、改めてエコの知識を再確認していました。



やった〜! 沖縄に着いたよ!



ベビーサンゴ移植づくり

今年も楽しく活動ができるように、みんなが協力してくれたことが一番よかったです。感想文から、生の声を聞いてください。

◆沖縄に行ったこと…活動発表会でがんばり、沖縄に行けることになり、うれしくて興奮した! 沖縄ではシークワサーを自分の手でもぎ取り、炭酸水と混ぜて飲んで、酸っぱかったけど美味(おい)しかった。グラスポートでは、信じられないくらい海が透けて見えきれいだった。バナナ見学では、バナナは木ではなく大きい「草」だということを教えてもらいました。サンゴの移植では、マザーサンゴを切って(切ったらネバネバした液体がでてきた)ベビーサンゴにしました。他のクラブの人とも仲良くなれて、本当に「沖縄に行ってよかったな〜」と思いました。あっという間の4日間で、みんなと仲良くする大切さを改めて思いました。最後に一つ「暑かった!」…5年生



小松さんと

◆陶芸体験…はじめは何でもない粘土でしたが、だんだん手を加えていくことで、いろいろな形に生まれかわるところが一番楽しかった。どんな感じになるのかを考えながらやっていくと、はじめとは違う形になっていた。釉薬(うわぐすり)(秋田杉と秋田こまちの灰)は一気に掛けた。焼きあがった作品ははじめとは全く違っていて驚いた。モノづくりは一つ一つの工程をていねいにやることだと分かりました。…5年生



陶芸体験



釉薬掛け前処理中



イオン土崎港店チアーズクラブ カモメ

秋田市

イオン土崎港店チアーズクラブは地域の小学生総勢13名で活動しております。環境への取組テーマを掲げ年間活動をしてきております。本年のテーマは「リサイクル」です。地球の環境破壊が進んでいる現状、自分たちのできるリサイクルは何なのか、子供会で新聞・雑誌・段ボール・瓶など回収するけど、それがどうなっているのだろうか、疑問が興味へと変わりました。

環境センター見学に行き、リサイクルできるごみの流れについて子供たちは勉強しました。資源ごみを再生利用することで、環境にお手伝いしている事を再確認できた子供たちでした。

「資源ごみの分別が分からない」子供たちの疑問の声に、秋田市環境部の皆さまよりご指導いただき、また、楽しいゲームをしながら分かりやすく学ぶことができました。

子供たちは小さくなったスカート、スポン、Tシャツを持ち寄りオリジナルバッグや小物入れなどに変身をさせたりしました。



毎年町内会の皆様と一緒に秋田城史跡公園山桜植樹を実施していることも環境活動の1つです。小さな行動の積み重ねが大きな資源を守る・きれいな町作りになることを学ぶ活動となっております。今後も子供たちが次世代を受け継ぐ環境の一つでも学びが活かされることを願っております。



たしろこどもエコクラブ

大館市立たしろ保育園

たしろこどもエコクラブは、今年度4月に発足し、年長児を中心として活動を始めました。5歳児45名、4歳児42名、3歳児51名、計138名のクラブです。

主な活動内容は、廃品を利用してのおもちゃ作りや遊びに使う環境作りです。各家庭に協力いただき、園で廃品を収集しています。また職員の協力で、園内から出た廃品もどんどん利用しています。

その他に、園内全体で節電を心がけたり、水のムダ使いをしないこと、物を大切にすることなど、みんなで声をかけ合ってエコ意識を高めています。これからも、いろいろな工夫をして遊びや生活の環境を作っていきたいと思います。



牛乳パックやティッシュの空箱などを利用したイス



廃品を利用した足ふみマット(卵パック、スポンジ、シュレッダーのゴミ、プチプチマットなど)



牛乳パックのついでに、イスでコーナー作りをしています。



どれみ保育園エコクラブ

大仙市・どれみ保育園

どれみ保育園のエコクラブは、年長児5人、年中児7人を中心に、園全体でエコ活動に取り組んでいます。自分たちの身近なところから始めよう！と、毎週月曜日には、自宅から出たダンボールの空箱やジュースの空き缶を持ち寄り、分別作業を行っています。

また、給食から出た野菜の皮や残渣(残り物)などを園の畑のコンポストに集めて堆肥作りをしています。姿を変えてポロポロになった堆肥を見て、子どもたち一同ビックリ！「これで、また野菜が大きくなるんだね！」と、野菜作りに、ますます興味を持ってくれました。

～子どもたちのコメント～

混ぜてしまうとゴミだけど、自分たちが分ける事によって資源になって、また活躍できるというお話を聞いて地球に優しい事をしているのがわかって頑張ろうと思いました。

～子どもたちと取り組んで～

家庭内でも「この箱、保育園に持って行こうね。」と共通の話題として会話がうまれているようで、子どもたちのエコの意識が高くなっている事を感じられ嬉(うれ)しくなります。小さな子どもたちが大きなダンボールの箱を運ぶ時がありますが、とても意欲的に頑張っている姿を見て頼もしく、私たち大人も大変刺激され、エコの意識が高くなりました。

来年度の活動として大仙市の地元の企業、教育機関などが一緒に「いきものみっけファーム」という環境活動に参加します。「米の精」という有機肥料を使用しての畑の野菜作りを、今からワクワクしている子どもたちです。



ちびっこエコレンジャーイースト！

大仙市・大曲東保育園

こどもエコクラブ事業に賛同し、子どもたちで“地球に優しく……”を一緒に考え、話し合いながら園でできる活動として実践しています。その一部を紹介します。

《高校生と花プラン事業に参加》

修英高校のお兄さん、お姉さんとプランターに花を植え、JR大曲駅前に飾りました。

《グリーンカーテン栽培日記》

町の種苗店に行って種を購入し、グリーンカーテンの種(ゴーヤ、フウセンカズラ、朝顔等)を植えました。

《小さなことからコツコツと》

ペットボトルをつぶして捨てるなど、日常の生活で無理なくできることを続けています。子どもたちの意識の中にも「水、出しばなし！電気つけばなし！もったいないね」と節水、節電の心が芽生えてきています。

《被災地から届けられたどんぐりを育て、被災地へ届けよう》

「どんぐりの赤ちゃんを育て、少し大きくなったらお父さん、お母さんの所に返してあげよう」と、もうすぐ一年生になる子どもたちの手で一粒ずつ心を込めて植えました。今はまだ寒いので土の布団ですやすや眠っているようです。春になり暖かくなったら子どもたちと水やりをしながら育てていきたいと思っています。



※ちびっこエコレンジャー来年も続く…※

年長児は、「ありがとうの会」でバナナとエコの気持ちを小さい組に引き継ぎます。



聖霊幼稚園の一年の生活の中に何かしら「エコ」の活動と関わりをもつようになって今年は、秋田市の環境部のお誘いで環境絵本の読み聞かせに参加した。

ラポラポラ(アイヌ語ではばたくの意だそう)がその絵本。森にラポラポラ(妖精)が住んでいるという。どこにいるの？本当かな？と絵本に引き込まれていく子どもたちの目(まな)差しは、きらきら光っていた。えぞりすがこちらを見つめる。鹿(しか)が、きたきつねが、夜はふくろうが、森の生き物たちにはラポラポラは見えているのかな、きっと見えているよ。そんなおしゃべりをしながら見つめる子どもたち。森の生き物たちの生き生きとした表情がフォーカスされ絵本から飛び出してくるようだった。

子どもたちは絵本の世界に親しみをもっていましたが、年長児にとってこの写真絵本に写しだされる世界は、子どもたちの好奇心をくすぐるのに十分であったのか。身を乗りだし、ページをめくるたび歓声があがった。



大人が子どもたちに良い環境を提案し、好奇心や興味関心を大いに揺さぶる体験が大事だと感じた。

子どもたちは「ラポラポラ」が口ぐせになり、森にはきっと妖精が住んでいて、森をはばたき守ってくれるのだと、子どもたちの柔らかい心にしみていったようだった。

この日職員の方々と枝のストラップ作りへと作業を移しながら、じっくりと枝にマジックで自分の印を刻み、手触りを楽しみながら、世界に一つの森のストラップを完成させていた。2回目の「水ってふしぎだね」のテーマの出会いもまた楽しみ！



ペットボトルの虫かご ~定番でしたが、形を変えたら!!!



毎年夏になると、子どもたちがそれぞれの家庭から2リットルのペットボトルを持ち寄り虫かご作りに取り組んでいます。カットは保育士がやりますが、思い思いの絵をマジックで描くことで自分だけのオリジナル虫かごの誕生です。昨年も春に虫かご作りをしましたが、例年の横長タイプではなく、上、三分の一を切り離して逆さまにはめ込んだだけの縦型の新型虫かご！その名も虫キャッチャーを考えました。虫キャッチャーは製作が簡単でしかもかなりのすぐれものだったのです。入り口は逆さまのペットボトルのそそぎ口。ここからは大抵

の虫～トンボ、バッタ、カエル、コオロギ、などが入ります。去年は遠足の公園で大きなバッタやかまきりをたくさん捕まえました。そして穴が中央のため虫たちは逃げられません。逃げようとして上がってきますが隙間に挟まって止まってしまいます。そこで、虫たちの顔や体をよく観察することができます。笑っているようなバッタの顔に子どもたちも大笑い！汗のしずくも光る元気な夏でした。さあ、観察したら虫たちを帰してあげましょう。はめ込んでいた上部をパカッと外せば簡単に虫たちを外へ～戻せばまた虫キャッチャーに！！春から秋まで毎日持ち歩きいろいろな生き物を観察できました。今は各家庭で大切な物を入れて見るところに下がっているそうです。簡単すぐれもの、ペットボトルの虫キャッチャー！！今年も夏にはおめみえすることでしょう。



藤里小エコクラブ

藤里町立藤里小学校

藤里小学校のエコクラブは6年生29名、5年生19名、4年生27名の計75名のクラブです。今年度も、校内環境に関わる活動を推進するエコエコ委員会が先頭に立ち、全校みんなに呼びかけて、アルミ



缶やペットボトルのキャップ集めに取り組んできました。毎年メイン活動として実施している「アルミ缶回収」では、準備した空き缶圧縮器を使用し、休み時間返上で処理に当たりました。“エコエコ委員会だより”による保護者や地域の方々への呼びかけの効果もあり、4月から12月まで回収したアルミ缶は約511kg、ペットボトルのキャップは約10,000個近く集まりました。

また、震災後から自分たちにもできる節電・節水を呼びかけるポスターを作成し校内に掲示しました。

このように、エコエコ委員会メンバーのがんばりが、全校児童の“エコ”への取組を後押ししています。更に4年生が行った「ふるさとの水の学習」では、町内の豊かで美しい川や水源地について学びました。藤琴川の簡単な水質調査や川の水生生物の採集を行い、水のきれいさや自然環境の大切さを体感させてくれました。



五里合小4年エコクラブ

男鹿市立五里合小学校

1. クラブ紹介

五里合小4年エコクラブは、五里合小学校の4年生12名のクラスである。活動の前半は、五里合地区にある男鹿市の水源「滝の頭」や美郷町の湧水群見学から水について調べた。後半は男鹿市のゴミ収集について学習し、ゴミを減らす活動について新聞にまとめた。

2. 活動の様子

①水についての学習

- ・男鹿市の滝の頭浄水場見学をした。市の水道水が滝の頭から来ていることや、昔は水争いがあったことなどを知り、水を大事にしようという意識が出てきた。
- ・美郷町湧水群を見学し、町全体で水を大事にしていることを知った。



②ゴミについての学習

- ・男鹿市のゴミはどこへ運ばれていくのか調べ、八郎湖周辺クリーンセンター見学をして、ゴミは分別されてリサイクルされたり、リユースされたりしていることを知った。



3. 活動を振り返って

社会科や総合的な学習で調べたことを新聞にまとめた。この活動を通して、環境を守ることの大切さや自分たちができることについて学び、実践していこうという意識がもてた。



浜田小エコクラブ

秋田市立浜田小学校

浜田小エコクラブは、1年生から6年生まで全校93名のクラブです。6月には本校で40年間継続している浜田浜の清掃活動を行いました。今年も海岸には様々な漂着ごみが数多く見られ、夏の日差しの中、1年生から6年生のなかよしグループでゴミ袋を片手にペットボトルやポリ容器、空き缶、ビニール袋などを拾い集めました。約1時間の作業後、子どもたちが拾い集めたごみはゴミ袋20個ほどにもなり、その量の多さに子どもたちは驚いていました。清掃活動を終えた子どもたちからは、「ごみが多くてびっくりしたけど、浜がきれいになってうれしかった。」「ごみを拾った後をふり返って見たら、ごみがなくてきれいだった。」という感想が聞かれました。



6年生では給食の調理の際に出た野菜のくずをEMボカシで肥料にして、学校花壇の花の栽培に活用しました。当番を決めて毎日給食調理室に野菜のくずをもらいに行き、EMボカシをかけて肥料作りを行いました。本校では全校児童が一人ひとつずつ花を植えたプランターを管理しており、登校してすぐに水やりをしたり草取りをしたりしています。子どもたちが作った肥料を使い、花壇の花をきれいに咲かせることができました。



戸島小学校エコクラブ

秋田市立戸島小学校



全校クリーンアップ大作戦

本校は、エコクラブ会員として全校児童81名で、環境教育・エコ活動に取り組んでいます。6月には全校クリーンアップ大作戦を実施。全校が縦割りグループに分かれて学区内の道路などのごみ集めを行いました。一見きれいに見えていても、いろいろな所にごみが隠れているのが分かりました。また、全校田植や畑活動、花壇づくり、緑のカーテンなどは地球温暖化防止対策につながる活動として計画的に実施しています。さらに、4～6年生の児童会活動では、アルミ缶・スチール缶のリサイクル

ル、インクカートリッジやボトルキャップ、プルタブの回収、緑の羽根募金活動等に主体的に取り組んでおり、地域の方々の協力のもと3R活動の実践となっています。その上、6年生は毎年秋に、学区内の県指定史跡である豊島館の松の下草刈りを行っています。松は戸島小学校の創立120周年を記念して植えられたものです。6年生にとって地域の自然環境やふるさと戸島を見つめるよい機会となっています。

こうした多くの活動を通して、今後とも環境への関心や思いやりの気持ちを高めていきたいと思ひます。



豊島館の松の下草刈り



水草で 八郎太郎を よびもどそう

飯田川小学校は、秋田市の隣の潟上市にあり、広い田んぼと八郎湖がすぐ近くに 있습니다。全校児童211人みんなでエコ活動に取り組んでいます。春の「花いっぱい運動」では、毎年きょうだい学年でペアを組んでプランターの花を育てています。また、今年からは毎月第一月曜日を「エコの日」として、節電・節水やごみの減量などを積極的に呼びかけることにも取り組みました。



しっかり根付くといいな

4年生は総合的な学習の時間に八郎湖の環境に目を向け、そこにすむ生き物を調べたり潟船保存会など地域の方から昔の八郎湖のお話を聞いたりしました。そして、昔のように生き物がたくさんすむ八郎湖になることを願って、実際に水草を植え、八郎湖の環境保全に関する標語を考えました。その一つがこの文章のタイトルです。また、5年生は、県生活環境部



大事に育てようね



これがアオコです

の出前講座で八郎湖とアオコのお話を聞き、水質悪化の原因になっているアオコを実際に顕微鏡で観察しました。身近な環境問題について理解を深め、自分たちの生活を見直すことができました。



ごみを減らそう



学校のそばには丸子川や雄物川が流れています。この川は地域のシンボルでもあり、子どもたちは小さいころからこの川に親しみをもって成長してきています。本校の3年生は、「かしま流し」という伝統行事で、親子で創り上げた大きな「かしま船」に夢をのせて丸子川に流します。このように地域の豊かな自然(川・山・植物など)の中で子どもたちは生き生きと生活し、自然から生き方を学び、生かされています。そんな地域の自然をもう一度見つめ直し、自然の豊かさを実感してほしいという願いをもって、年間10回のクラブの時間に取り組ませました。

今年度の「自然発見クラブ」のメンバーは4年生から6年生までの24名です。今年度の研究テーマは「地域に咲く植物の種類について」「雄物川にすむ魚調べ」「地域に生息する昆虫調べ」「水中の小さな生物調べ」でした。

金魚の池や近くの田んぼの水からは「アオミドロ」や「ゾウリムシ」などのび生物を顕微鏡で発見し、からだのつくりなどをくわしく観察することができました。また、地域に咲く植物、例えばオオイヌノフグリやヒメオドリコソウ、ヒメジオンなどの花粉を顕微鏡で観察して、その花特有の形を見つけることができました。私たちにとって住みよい環境(自然)であり続けるためには、植物と動物たちとの共存が何よりも大事であることを研究を通じて一人一人が強く実感することができました。





1 活動にあたって

昨年度は、「田んぼに住む生き物調べ」を行い、田んぼが私たちの生活やふるさとの自然環境とどう関わっているのか追求しました。今年度は、学校近くの川とその上流域の川の水質調査と、ふるさとの環境保全活動をしている人々の思いや願いを取材することにしました。これらの活動が、ふるさとの環境を見直すきっかけになりました。

2 活動の概要

- (1) 大曲南中学校前の用水路の生き物調べ(川の中流域: 7月)
- (2) 「あったか山」近くの川の水質調査(川の上流域: 7月)
- (3) 「親水公園を愛する会」の代表である石田さんにインタビュー (10月)
- (4) 小中連携環境デーで、今年度の研究発表と来年度への提案を発表 (11月)



3 子どもたちのコメント

- ・川の上流部の水はきれいでしたが、自分たちの住んでいるところの川は汚れていました。一方で、中学校前の用水路にメダカが棲(す)んでいました。メダカがいるということは、自然豊かな環境に恵まれているという指標にもなるということだったので、メダカの保護を呼びかけていきたいです。
- ・ふるさとの環境保全活動をしている「親水公園を愛する会」の活動をエコ新聞で全家庭に知らせして、地区のみなさんからより多くの協力を頂くことができるようにしたいです。
- ・毎年、「親水公園」のクリーンアップが実施されています。それに大曲南地区の小・中3校と一緒に参加していきましょう。(小中連携環境デーで発表)



1 クラブの紹介

雄物川北小学校エコクラブは、6年生8名、5年生6名、4年生4名、計18名の子どもたちで活動しています。今年度15回程度活動を行ってきました。今年度の活動内容としては、校庭の動植物の観察、スライム作り、校内にある池の水質調査などです。

2 子どもたちのコメント

- 初めて水質調査を行いました。水質調査の仕方は、初めは分かりませんでした。先生や友だちから聞いたり、やり方を調べたりしながら行いました。校舎南側にある池の水を調べました。思ったよりもきれいでびっくりしました。このきれいな環境を大切にしていきたいと思います。
- ヘチマの実を実際に開いてみました。ヘチマの実の色は、こげ茶色でした。もってみると思ったよりも軽かったです。ふってみると、音がしました。



校舎南側の池



水質調査

3 サポーターからのコメント

活動の計画を子どもたちと一緒に考えながら1年間進めてきました。身近にある動植物の観察や水の調査を通して、身近な自然について考える活動を行っています。豊かな自然をこれからも大切にしていこうという気持ちをもっと高まってくれたらと思っています。



知らなければ守れない 川はだれのもの? ~ふるさとの川, 役内川を守ろう!~



秋田県小・中・高等学校
児童・生徒理科研究発表大会



スタートの役内川源流



ゴールの雄物川河口

役内川・雄物川・イバラトミヨの保護池を中心に水質や生き物を調べて3年目になります。今年は役内川と同じ雄物川の支流である「皆瀬川・高松川」も加えて、調査場所は8か所にしました。

わかったこと…

- ①役内川川遊びの場所: 生き物の種類は変わらないが個体数が減ったように感じる。
- ②役内川雄物川合流地点: 多少水質が悪化したが生物の種類に変化なし。
- ③虎毛山登山口役内川源流: 水質よくムカシトンボのヤゴ発見。
- ④湯沢市雄物川中流: 護岸工事後水質が改善し稚魚が多かった。
- ⑤院内銀山雄物川源流: 水質がきれいに保たれ、様々な種類のカワゲラはここだけで発見。
- ⑥横堀イバラトミヨの元保護池: 去年弱酸性に傾いていた水質がアルカリ性に戻りイバラトミヨがたくさん泳いでいた。
- ⑦高松川: 水質が上流の硫黄泉のために強酸性, 生物見つからず。
- ⑧皆瀬川: 上流の温泉のためにアルカリ性を示す。稚魚は多いが水生昆虫の種類は少ない。

3年間の研究をふり返って

わき水・雨水・温泉の源泉・生活排水等を引き受けながら川は流れ、様々な命を育んでいます。でも、この川を守ることができるのは私たち人間だけです。「雄勝は自然が豊かでいいね」と言われても、実際に調べてみなければそのよさも守る方法もわかりませんでした。この3年間のデータや標本を大切に、多くの人に伝える機会をもって、これからも環境を守るために自分ができることを考えていきたいと思います。



例年岩見三内中学校では秋田大学より石井照久先生をお招きして水生生物観察会を行っています。小学校と中学校が併設になって2年目。今年は、小学5、6年生と一緒に交流し縦割り班を作って行いました。



岩見三内小・中学校校舎の後ろで岩見川と三内川は合流しています。三内川では、中学生女子と小学5、6年生が、岩見川では中学2、3年男子が観察をしています。岩見川の方が流れが速く、深い場所があるためです。

今回の観察会では、岩見川では「ヘビトンボ」がいつも通り多く見られました。同時に三内川でも多く観察され、三内川が昨年よりもきれいになっていることがわかりました。



私たち秋田東中学校科学部は、3年生4名、2年生9名、1年生5名、計18名で活動しました。8月にはアルヴェの自然科学学習館で行われるワークショップに参加し、9月には学校祭で様々なブースの運営を行いました。また、今年度は秋田大学の鉱業博物館を見学しサイエンスボランティアの方からお話を聞くこともできました。ふだんは、いくつかのグループに分かれて自分たちの興味のあることについて研究をしています。

今年度、私たちが行った研究の1つを紹介します。「土から考える植物の育ち方」というテーマで土と植物の関係を調べました。校内の様々な場所の土を採取し、土壌検査キットを使い成分を調べました。その後、はつか大根が一番育つのはどの土であるかを予想し、育て、検証しました。その結果をもとに一番育ちの悪かった土に、肥料の三要素である、チッ素(N)、リン酸(P)、カリ(K)のそれぞれを加えたもの(各2つ)と、三要素すべてを加えたもの、何も加えなかったものの8つで、追加実験を行いました。この実験を行うにあたり、秋田大学の先生に協力していただき、温度を一定に保つ装置を使用しました。この2つの実験から、植物が大きく育つには、役割によって肥料を変えることが必要であることがわかりました。実験の内容は、すでに検証されていますが、自分たちの身近な土に疑問をもち、装置を工夫して作りながら研究した時間は、とても有意義なものでした。来年度は、この研究をさらに掘り進めていきたいと考えています。



生物が生息しやすい環境を整える活動やその環境を「ビオトープ」と言います。このビオトープを実際に作り、生態系について研究することにしました。

4月の下旬ころ、メダカ、スジエビ、水草を入れたビオトープをつくりました。1~2か月たつと、大分慣れてきたようで動きが活発になってきました。6月ころ、卵をつけているメダカを発見しました。卵や稚魚は親メダカに共食いされるため、別のビオトープで隔離することにしました。すると、100匹を超える稚魚が順調に孵化(ふか)しましたが、ある時から急に姿が見えなくなりました。疑問に思っていました。7月上旬ころにイトトンボを発見しました。イトトンボのヤゴがかえていたのです。稚魚の減少はこのヤゴが原因でした。そこで隔離をやめ、親と一緒にしたところ、稚魚の生存率が大幅に上がりました。親メダカの存在がヤゴから稚魚を守り、また水草が隠れ場所になったのだと思います。この他にも、アマガエルやアオミドロなど、最初入れた生物以外のものもビオトープに入ってきました。



この研究で、生物・水草・土・プランクトンなどが互いに関わり合う中で、どれが欠けても生態系が成立しないとわかりました。私が人工的に環境を整えようとしても、結果的に生態系のバランスが自然と調整されていました。これは、私たち人間の力が及ばない「自然の力」です。ビオトープで大切なことは「基本手を加えない」ことだと感じました。今後もビオトープを自然保護の拠点とし、広い視野でこの研究を継続したいです。

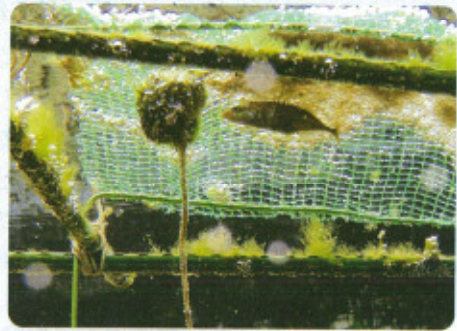


美郷中学校総合的な学習の時間「成瀬川水質調査班」

美郷町立美郷中学校

今年度は、町内の3中学校が美郷中学校として統合になり、3校の科学部が1つになりました。そこで、元六郷中学校の科学部で未完成であったトミヨ属雄物型の繁殖についての研究を、美郷中の総合科学部で更に詳しく、引き続き行うことにしました。

今年度の成果としては、これまで六郷地区だけで行っていた水質調査及びトミヨ属雄物型の生息調査を、千畑・六郷・仙南の3地区について行うことができたことがあげられます。また、美郷中学校では、今年度前期、地元大学との連携プロジェクトの一環としていくつかの活動が行われました。3年生全員で秋田大学を訪れ、水環境がテーマの講義を受講しました。教育文化学部音楽科の学生さんたち20余名が、全校合唱コンクールの際に来校し、水をテーマにしたミニコンサートを開いてくれました。また、9月には、県立大学の近藤先生が、私たちのピオトープをご覧になり、「絶滅が危惧される生物が校地内に100匹も生息する学校は、全国でも珍しいのではないか」と言葉をかけてくださいました。今後の研究の励みとなりました。



人工装置に作った巣とオス



ピオトープの生息調査と清掃



鳳中学校科学部

横手市立鳳中学校

科学部は、平成21年から継続して学校の近くにある七日市沼の水質浄化活動に取り組んでいる。七日市沼は、昨年まで付近の住宅街から生活排水が流入していたため、赤潮が発生するなど汚濁した環境になっている。また、ドブガエル、アメリカザリガニなどの外来生物が多く生息し、生態系に影響を与えている。水質を改善し、多様な生物が住める環境を取り戻すべく、今回も研究を行った。

昨年の研究を参考に、野菜いかだ、ドブガイ、炭、水草を使って水質浄化実験を行った。また、今年もエコマイスターの方々とともにEM団子を作り、沼に投入した。大規模化した野菜いかだやEM団子などにより、今年の水質は例年よりも水質の改善が見られた。他の水質浄化作戦も実施方法を工夫し、効果的に水質浄化できるようにしたいと思った。これからも調査を継続して七日市沼に多様な生物が住める環境を取り戻していきたい。



昨年の研究から改善した野菜いかだ



雪沢小学校こどもエコクラブ

大館市立雪沢小学校

雪沢小学校 ゴールへGO!

総合的な学習の時間を中心にした3・4年生5名での活動でした。環境保護として取り組みたいことを話し合い、校庭の端の斜面に新たに花壇を作り、そこを花いっぱいにしてみんなに和んでもらうことを目指すことにしました。「夢花だん」と名付けた花壇には、今年が学校創立60周年ということで「60」の文字を作ったり、種から芽を出させた様々な花を植えたりしました。百日草を老人世帯に届けたり、あいさつ運動に来てくれた中学生にあげたりして喜んでもらいました。毎年全校で行っているヤマメの稚魚放流では、拾ってきた石に絵を描き、夢花だんに並べました。また、枝切りをした木の枝をのこぎりで切ったり組んだりしてオブジェも作りました。周りに丸太を並べて、すわって花を楽しんでもらうこともできました。今年初めてのグリーンカーテンにも挑戦し、ゴーヤやヒョウタン、アサガオなどを育てました。



夏休みには、ふるさとの川の様子を四か所で比べてみる中で、水質検査に関心を持ち、あきた地球環境会議の東海林先生をお願いをして一緒に調査することにしました。長木川の水は今はどこもきれいであることが分かり、その結果を自由研究にまとめ理科研究発表会で発表することができました。



全校に呼びかけてアルミを集める運動を始め、得たお金を来年度の事業資金にしてさらに活動を広げていこうと思っています。



花岡小エコクラブ

大館市立花岡小学校

1 クラブの紹介

今年度の花岡小学校こどもエコクラブは、5年生15名で活動しています。主な活動は、7月に行った自然教室での「田代岳の登山・自然観察」「長木川の水質調査」8月の「白神山地自然観察会」です。また、「花岡川周辺のクリーンアップ」も行いました。

2 子どもたちのコメント

- 長木川には、ヘビトンボが見つかりました。すごくきれいな川だということが分かってうれしかったです。私たちのふるさとの川がいつまでもきれいでいてほしいと思いました。
- 川底の石を持ち上げるといろいろな生き物がたくさんいました。小さな魚もたくさん泳いでいて、いろんな命が川の中で暮らしているんだなと思いました。
- 樹齢400年のブナの森は、静かでひんやりとしていました。ほとんど人の手が入っていないブナの森が、自分たちのすぐ近くにあったなんてびっくりしました。この豊かな自然を大切にしていきたいと思いました。



長木川で見つけた!

3 サポーターからのコメント

多くの自然に触れる体験的な活動は、子どもたちにとってとても貴重な機会だと思います。この経験がこれからの生活に生きていくことと思います。



鷹巣南小学校エコクラブは、全校児童 87 名全員が会員として「自然に触れる・考える」活動をしました。

1・2年生は手作りの虫かごを首にさげ、毎日学校周りの生き物や植物を探しに行きました。3・4年生は地域の自然を探検・調査しながら地域の方々と交流し、くらしと自然環境について考えました。5・6年生は育林を体験しています。森林学習会で鷹巣森林事務所の方々から森林の役割や林業の大切さなどについて教わり、育林をすることが、自然環境を守ることにつながることを理解しました。本校では年4回、季節ごとに苗の植樹、



下刈り、木起こしなどを体験し、自然と人との関わりについて考えています。



また、昨年度からEM菌を培養したプール掃除に取り組み、地域の川を守るためにEM菌がどのような働きをするかを学んでいます。その他にもたんぼの生き物調査、積雪や雪の溶け方の調査などたくさん



の自然に触れ、環境を守るために自分たちができること、しなければならないことについて考えることができました。



1 クラブ紹介

昨年4月、合川南小学校と合川西小学校が1つになって、合川小学校が生まれました。それぞれの学校で育ててきた、自然とふれ合い、身近な環境を大切にする心を、合川小学校エコクラブは受けついでいます。



2 主な活動

①全校登山(全校, 7月3日)

合川地区の最高峰「白津山」の山頂で大声大会、俳句作りなどを行いました。森林管理局の方から、森林の生き物、森林の役割、森林環境保全などについて学びました。

②たんぼの生き物調査(4~6年, 7月11日)

「JAあきた北央」の方を講師に、たんぼの生き物を調べ、たんぼの役割について学びました。多種多様な生き物との出会いに、子どもたちは目を輝かせていました。

③宿泊体験活動(4, 5年, 7月18~19日)

大館少年自然の家に宿泊し、グリーンウォッチング、野外炊飯、星空の観察、曲げわっぱ製作などで、自然に親しみ、自然との関わりを見つめ直しました。

④EM菌によるエコ活動(全校, 通年)

全校でEM菌培養液をつくり、シーズンオフのプールに投入。5年生ではEM菌ぼかしを使って、給食の残菜による肥料づくりにも取り組んでいます。



能代市立第四小学校 4年エコキッズ

能代市立第四小学校

能代市立第四小学校 4年エコキッズは、4年生93名から構成されており、活動を始めてから5年目になります。毎年4年生が総合的な学習の時間の中に環境学習として位置付け、社会科見学等との関

- 4月 ごみ処理場見学
- 5月 エコブラッシュ(リサイクル工場)見学
能代市出前講座「混ぜればごみ、分ければ資源!」
- 6月 浄水場・終末(下水)処理場見学
- 7月 米代川 水生生物調査 (国土交通省)
- 11月 秋北バス出前授業「エコライフゲーム」

連を図りながら次のような活動を行いました。子どもたちは、身近な環境問題に関心をもち、「生ごみのリサイクル」や「水のリサイクル」、「川のごれ」などをテーマにし、調べ学習や調査活動などに意欲的に取り組んでいました。



水生生物調査

カワゲラ類やヒラタカゲロウ類などたくさんの水生生物がいました。米代川はきれいな川だと知りました。

エコにつながることを家でもやっていたことを知りました。それは、お風呂のお湯を洗濯に使うことです。



エコライフゲーム



いずみっこエコクラブ

秋田市立泉小学校

いずみっこエコクラブは、泉小学校の4年生がメンバーとなって活動しています。これまでハミング学習(総合的な学習の時間)の活動の一環として、「環境」をテーマに取り組んできました。

美郷町六郷湧水群の清水や旭川、雄物川などの身近な河川の水質をバックテストで調査して比較したり、秋田市の泉地区に降る雨水の酸性度を数度にわたり調査したりして意欲的に取り組みました。子どもたちが予想していたよりも水質はよかったです。家庭から出るわずかな生活排水でも川が汚れていくということを改めて知り、自分たちの生活を見直さなくてはならないという問題意識をもつこともできました。

また、その他にも社会科の学習と関連づけてごみの減量やリサイクル、緑化などについても調べたり、実践したりしていろいろな方法でエコ活動ができるということも学ぶことができました。



そして、10月の学習発表会では、これまでに調べてきた環境保護・保全に関する内容をまとめて資料を作成し、地域や保護者の方々に自分たちなりの考えをもってメッセージを伝えることができました。子どもたちは節電や節水、グリーンカーテンなど自分たちでも簡単にできることの積み重ねが、地球を守っていくことにつながることを学び、エコに対しての意識を高めました。





桜小学校こどもエコクラブ

秋田市立桜小学校

桜小学校こどもエコクラブは、全校児童923名全員が登録し、今年も、様々なエコ活動に取り組んできました。特に力を入れて活動しているのが、プルタブ、アルミ缶、ペットボトルキャップなどの回収です。エコボランティア委員会が中心となり、回収活動を続けてきました。委員会の呼びかけに応じて各家庭で集めてもらったものを、毎月、回収しています。回収後に、集まったアルミ缶を平らにつぶしたり、ペットボトルキャップをひとつひとつチェックしてシールをはがしたりして、リサイクルしやすいようにする作業は、力も根気も必要で大変です。でも、みんなの協力で集まったものを無駄にしないように委員会のみんなでがんばっています。

プルタブなどは、それぞれは小さくて、つい捨ててしまいがちなものですが、どれも大切な資源です。回収活動で、全校のみんなと、その家族、1人1人が意識することができると思います。わたしたちのためにも、地球のためにもなるので、これからも回収活動を続けていきたいと思っています。



五城目小学校エコクラブ

五城目町立五城目小学校

1 クラブ紹介

五城目小学校エコクラブは、5月から11月まで実施されている自然科学クラブと7月から8月にかけて行われている馬場目川水生生物調査隊の二つから構成されております。自然科学クラブは、地域の自然観察を目的とし、今年度は野鳥の森を二回訪ねています。馬場目川水生生物調査隊は、生息している水生生物をもとに水質を調査することを目的とし、馬場目川とその支流である富津内川、内川川の15の調査地点で調査を実施しています。

2 子どもたちのコメント

水のきれいさで、川の中にすんでいる生き物が違うことを初めて知りました。

夏の暑い日でも、川の上流の水が冷たいことにびっくりしました。

野鳥の森で、外来生物が日本固有の生態系に与える影響の話聞いて、とても驚きました。



3 サポーターからのコメント

恵まれた自然環境の中での実体験を通して、自分たちの住んでいる地域の自然の素晴らしさや豊かさを十分に感じる事ができたと思います。環境を守ることの重要性に目を向けるいい機会になったことと思います。



井川小学校自然観察クラブ

井川町立井川小学校

自然観察クラブでは、井川小学校の周りの自然とふれあいながら活動を進めています。主に国花苑の森や池などの植物について観察しています。今年度は自然の観察の他、カヌー体験や自然のものを使得の遊び道具(弓矢)作りも行っています。そういった活動の他、夏休みに井川町を流れる井川の水生物調査も行いました。毎年行われているこの活動は、井川の水質調査として貴重な資料となっています。メンバーは毎年替わりますが、どの子も楽しく活動することができました。

《子どもたちの感想》

☆水質調査に行っているいろいろなことがわかりました。大台ではヒラタカゲロウやトビケラを見つけました。今年はヘビトンボをたくさん見つけることができました。井内にも似た生き物がいました。大台と井内の水はきれいだなと思いました。これからも井川の水を大切にしたいと思いました。

☆ぼくは水質調査を初めてやってみて、自分たちの川について初めてわかったことがたくさんありました。一番感じたことは、井川が生き物たちがたくさんすむきれいな川だということです。僕たちの町の井川をこれからも大切にしていきたいです。



西目小学校シーガルエコクラブ

由利本荘市立西目小学校

西目小学校は、今年度も、全校児童327人全員がシーガルエコクラブのメンバーとなって活動に取り組みました。

【フィールドワーククラブによる河川調査】

4～6年生のクラブ員が、土地改良区の方々の指導を受けながら、西目小学校に隣接する「親水公園」および近くを流れる西目川の水質調査・生物生息状況調査を行いました。

水質については、pH、COD等6項目を調査し、生活排水などの影響を若干受けてはいるものの、生物が生息するには問題ないということが確認できました。西目川では、アユ、ハヤ、ウグイ、ボラ、ニゴイ、モクスガニなど、多くの種類の生物を採取し、観察することができました。



【JRC委員会による空き缶回収】

5・6年生のJRC委員が、キャスター付きの大きなボックスを玄関ホールに毎朝準備して、空き缶を回収しました。全校児童が、各家庭からアルミ缶を持って登校し、資源を大切にする意識を高めることができました。

【全校による環境整備活動】

「愛校日」に校地内外の外掃除を全校で行っています。ごみを分別して集めたり、落ち葉を掃いたりする活動を通して、学校周辺環境や水環境を全校で守っています。

第14回「みどりの小道」環境日記コンテストで 袴田那央さん(西目小)が環境大臣賞を受賞!



「みどりの小道」環境日記は、子どもたちが環境をテーマにした日記を書くことで、身近な地球環境について考えみんなで話し合い、行動することを目指しています。

全国 62,759 人の応募の中から、由利本荘市立西目小学校の袴田那央さんが、みごと個人の部「金賞」環境大臣賞及び味の素「食エコKIDS賞」を受賞しました。

平成 24 年 12 月 15 日、東京ビックサイトで第 14 回「みどりの小道」環境日記コンテストの表彰式が行われました。

袴田さんの通う西目小学校は、休み時間になると学校に隣接する親水公園に出て、自然の生き物とふれあえる、環境に恵まれた学校です。親水公園は、地域の環境保全の会の方々が地域の子どものために維持管理してくれている公園です。カルガモの巣を見つけても、卵にいたずらする子どもがいません。子どもたちに見守られて、カルガモも安心して子育てができる学校です。

西目小学校は、全校生徒がこどもエコクラブに加入しており、空き缶回収、清掃活動、河川の水質調査などの活動を続けています。袴田さんは、西目小学校シーガルエコクラブの活動の一環として、小学校 4 年生から、「みどりの小道」環境日記に取り組みました。

袴田さんが環境日記を始めた 4 年生のころは、家庭や学校生活での身近なこと、例えば、緑のカーテンや節電・節水など、どの家庭でも見られる内容が多かったそうです。でも日記がきっかけで、環境について調べれば調べるほどまだまだ自分のできるエコや新しいアイデアが出てきて、環境のことを考えることが楽しくなってきたそうです。

袴田さんは、新聞やテレビ番組から、現在そして未来の自分を取りまく環境・エネルギー・エコ活動に興味を持ち、そこから生まれる疑問や提案を自分の素直な言葉で環境日記に書きました。そして、家族との環境についての会話をとても大切にしています。



袴田さんの環境日記(抜粋)

これは大震災のような自然災害でではなく、どちらからも人間が起したことで、人間の手で止めることができるものだという事です。

日本は、原爆や水俣病などの公害病、大震災、原子力発電所の事故を経験してきました。私は、他の国の人々が同じ悲しい思いをしないうように、日本が世界に伝えていかなければならないと思います。環境日記を書いていく私たち、平和を守ることを一番に考えて行動すること、平和を守ること、環境を守ること、すばらしい地球が守られていると信じています。

一学期に、私のゆり学級隊や新隊員について学習しました。そして夏休み、私は母の更家に行き、祖父に親父の話を聞きました。祖母は時々涙を流して話してくれました。その姿を見た時、どうして戦争を止めることができなかつたのか、その時正しい判断をしていられなかったのか、ととても悔しい気持ちになりました。そして戦争と環境破壊は、どこか似ていると思っただけです。

環境日記のまとめ

秋田県由利本荘市西目小学校
六年松 袴田那央

環境日記のまとめ

袴田さんの 5 年生の環境日記は、大震災から感じた命の大切さも書かれています。6 年生になってからは、世界で起きている環境問題を、他人事としてとらえるのではなく、自分なりの意見をもって行動することが大事であるという考えのもとに、日記だけではなく様々な活動を通して環境を守ることの大切さを発信しました。田沢湖にクニマスを戻したいとの願いから、家族で田沢湖に行き湖水を採取して酸性水を中和するための実験をしたり、「あきた子ども議会※」で再生可能自然エネルギーの活用について提案をしました。

袴田さんの日記や話から、郷土あきたをとても大切にしているという気持ちが伝わってきます。袴田さんと西目小学校シーガルエコクラブのこれからの活動を期待しています。

※あきた子ども議会：秋田県の課題等に対する関心と理解を深め、ふるさとを愛し社会を支える自覚と高い志をもつ子どもを育成するための県のプロジェクトです。平成 24 年 8 月 21 日、秋田県議会議場、小学校 5・6 年生が秋田県についての提言をしました。

「みどりの小道」環境日記に関するお問合せは下記にお願いします。

財団法人 グリーンクロスジャパン

TEL048-816-3513 <http://www.midorinokomichi.net/>

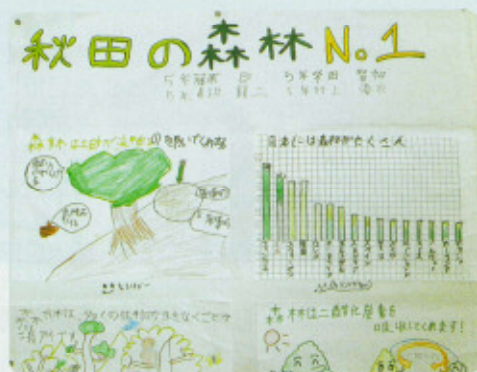


直根小学校エコクラブ

由利本荘市立直根小学校

直根小学校では、毎年4・5年生の子どもたちがエコクラブのメンバーとなって子吉川の水質調査活動をしています。今年度は、烏海山の5合目(亀ヶ原湿原)を出発点に、布沢→下玉田川→法体の滝の順で水質調査を行いました。水質は、簡易pHメーターやCODバックテストを使ったり、各地点で発見した水生生物を指標にしたりして調べました。

その結果、烏海山の5合目と法体の滝周辺の水は、強い酸性の性質できれいであること、その途中を流れる布沢や下玉田川の水は、中性もしくは弱い酸性の性質で少し汚れていることが分かりました。



その他の活動として、「森林の役割」や「身のまわりの環境問題」について調べました。森林にはたくさんの生物がすんでいることや、二酸化炭素を吸収したりたくさんの水をたくわえたりすることを学びました。環境問題では、ゴミの分別の仕方やゴミを減らす工夫について調べたり、川の水を汚す原因について調べたりしました。この活動をとおして、自然環境を守る大切さを知り、自分たちでできる活動をこれからも続けていこうとする意欲を高めることができました。



東由利小学校エコクラブ

由利本荘市立東由利小学校

5年生19名で地域を流れる高瀬川の支流探検にでかけました。高瀬川には名もない支流も数多くあり、全部で7本の支流を観察することができました。美しい流れと大事にしたい高瀬川の環境について、調べたことを多くの場で伝えました。

6月：19名で支流めぐりをしました。

休日は、各自自宅周辺の川を観察しました。

7月：「子吉川フェア」に参加し、子吉川の支流である高瀬川について研究発表をしました。

9月：秋田県立大学本荘キャンパスにおいて理科学研究発表会に参加しました。

10月：地域の秋祭りでチャートを展示しました。

「美しい高瀬地区を作る会」のみなさんと放流をしました。

ちよろちよろとした流れが一本の支流となり、それが重なり合って「美しい高瀬川」の流れとなっていました。この美しく豊かな流れを大切に守りたいです。



10/10 放流作業



平沢小サイエンスクラブ

にかほ市立平沢小学校

平沢小エコクラブは、6年生13名、5年生2名、4年生4名、計19名のクラブです。水曜日の必修クラブの時間を中心に活動し、理科実験をしたり、身近な生き物を調べたりしています。平沢小学校のあるにかほ市平沢地区は、比較的住宅が密集していて、TDK関係の工場も多いところですが、少し住宅地から離れると、田んぼが広がり、烏海山の噴火によってできた小山も点在して、夏にはホタルも飛び交う自然の豊かな地域です。私たちは、田んぼやせきにすむ生き物を採取したり、COD値やpH値を測定したりして、地域の環境を調べる活動をしています。

6月27日、この日は隣の学区にある農業を使わないで米作りをしている農家の田んぼを訪ねました。田んぼとその周辺の生き物や水質を調べ、オタマジャクシやカワニナ、シジミチョウのなかまなどをたくさん採取することができました。講師の先生から、植物や昆虫類の名前もたくさん教えてもらい、農業を使わない田んぼには多くの生き物が住んでいることを改めて知りました。今回訪ねたところは、私たちの地域の上流部にあたります。ここからきれいな水が流れ込むから、平沢地区にはホタルが生息できるんだろうなあと考えさせられました。



山内小学校5年エコクラブ

横手市立山内小学校

「山内の宝をさがそう」というテーマで、山内の自然を素材にした学習に取り組みました。

5月は、セイヨウタンポポなどの外来生物の調査、ベニヤマザクラによる染めものづくり。6・7月は、指標生物やパケットによる河川の水質調査。10・11月は、森林の働きの調査、森林保護の現場見学。それぞれの季節ごとに、山内の自然の豊かさを実感するとともに、自然保護の大切さを理解することができました。

〈子どもたちの声〉

- 石の裏などに、ナガレトビケラやヘビトンボなどがたくさんいました。これらの水生生物はきれいな水に生息しているそうです。たくさんの発見があり、楽しかったです。
- 人が出してしまった二酸化炭素を吸って酸素を出したり、きれいな水をつくったりと、木は大切な働きをしているんだなあと思いました。

学習を進めるに当たって、河川国道事務所や森林組合の方々にご助言やご指導をいただきました。子どもたちが大きくなっても、自然豊かな山内を愛し続け、労苦を惜みずふるさとを守ってくださっている方がいることを覚えていてほしいと願っています。





今年度は角館中学校科学部員15名で活動しました。主な調査の内容は、「地元を流れる川の水質調査」と「野草で和紙作製」でした。

○水質調査について

角館町には桜並木で有名な桧木内川と、田沢湖生保内から玉川が流れています。桧木内川の水は、町の生活水としても使われています。調査により、桧木内川はきれいな川であることがわかり、ポイントによってカジカ等の魚と水生生物、鮎と水苔との関係も知りました。川から引かれている町の堰は、昔からの住宅街を通るとき、生活排水が直接流れ込むため、水質は汚れていました。しかし、ヨシの植物群生地を通過後に水質が改善されており、ヨシの浄化作用の大きさを知りました。また、玉川では酸性の影響は少なくなっているとはいえ、水生生物はほとんど見つけることができませんでした。



○和紙作製について

和紙の原料として主に使われているコウゾに代わる植物はないか、学校周辺に生息している植物を採取して調べました。18種類の植物について調べた結果、植物の繊維の量や太さ、絡み合いの強さ等が関係し、コウゾの繊維のように最も和紙に適している植物は、フキの茎であることがわかりました。毎年生えるフキを有効利用することは、環境にも良いのではないかと思います。

○生徒の感想

毎年このような調査を続け、ふるさとの自然環境の状態を知り、そこから自分たちのできることを考えて行動していきたいと思います。



今年度、増田中学校の総合的な学習では「他地域に住む人々に増田の良いところを発信していこう」というテーマのもと、生徒が具体的に追求していく課題を設定し、調べたりポスターセッションを行ったりして学習を進めてきた。

自然科学をテーマとした分野では、学校のすぐ裏を流れる成瀬川の水質に興味をもった生徒たちで、成瀬川の水質や生息する水生昆虫について調査を行った。CODパケットによるCOD濃度の測定と成瀬川に生息する水生昆虫による水質階級の調査の2つを実施し、学校や自分たちの自宅に近い河原を測定場所とした。



結果はCOD値が非常に低く、水生昆虫の採集では、ヒラタカゲロウやトビケラなど水質階級Ⅰに分類される水生昆虫を多く見つけることができた。学習のまとめとして成瀬川の水質マップを作成した。

子ども達の感想では、「きれいな水に住む水生昆虫が多く生息していることを知った。」「この環境を守っていきいたい。」「河原に落ちているゴミなどを拾い、生物が住みやすい環境を守りたい。」「調べたことを他地域の人にも教えたい。」などが挙げられた。

成瀬川の水質調査から、自然環境保護への関心や、郷土を大切に思う気持ちが高まったように感じた。このような取組を継続していきたい。

かべしんぶん

ここで紹介する壁新聞は、こどもエコクラブが普段の活動や環境について調べたことをまとめ、エコクラブのなかまや地域の人たちに紹介するためにつくったものです。

ひろおもてエコクラブ

私たち「ひろおもてエコクラブ」は、毎月1回、いろいろな活動をしています。この壁新聞は、今までの活動でメンバーが心に残ったことを紹介しました。春は自然観察とクリーンアップ、夏はホテルの観察と水辺の観察、秋は動物園見学とプラザクリプトンでの森林の学習、冬は梵天(ぼんでん)祭に参加しました。

私がエコクラブの活動で一番心に残ったのは、仁別国民の森で水生生物の観察をしたことです。ヘビトンボやカワゲラなど、きれいな水にしか住めない生物を見つけたときは、とても嬉(うれ)しかったです。私たちは、このような生物たちが、いつまでも住めるような環境を守っていく努力をしなければいけないと思いました。



マックスバリュ東北 秋田イオンチアーズクラブ

今年は、リサイクルについてたくさんのことを学びました。

大森山動物園では「ゾウのフンをたい肥にする」というような資源を大切にするリサイクルもありません。昔の知恵を生かしたリサイクルはすごいなと思いました。

ペットボトルキャップは400個集めても10円にしかならないのですが、それでも発展途上国の子どものためになるので協力したいです。

大切なことは、世界の人々のことを考えながら暮らしていくことだと思います。

「環境の達人」を派遣しています

「環境の達人」地域派遣事業とは、こどもエコクラブ、市町村、学校及び住民団体等が主催する講演会、学習会等へ、環境問題・環境保全に関する講師を派遣する事業です。「環境の達人」は、小学校の理科や家庭科のメニューも用意しています。

枯葉と小枝・木の実のファッションショー

4年生理科 教科書P.85関連

45分

ねらい

秋の植物のようすの変化に興味をもち、木々の生命力に気づく。



写真：秋田市提供

プログラム例

- ①外で枯葉や木の実、小枝を集める。
- ②名前を調べる。
- ③モデルを決めデザインする。
- ④ゴミ袋に枯葉などをはりつける。
- ⑤ファッションショーをする。

学校で準備するもの

枯葉、小枝、木の実、ごみ袋、ガムテープ、セロテープなど

買い物でエコ!

5・6年生家庭科 教科書P.70～72、P.92～95

45分

ねらい

毎日使っている商品は、製造工程や運搬、廃棄に至るまで環境に影響を及ぼしていることを知る。



出典：環境省
株式会社総合研究所

プログラム例

- ①カードを使い買い物ゲームをする。
- ②カーボンフットプリントについて考える。
- ③商品の一生から環境を考える。

※カーボンフットプリント：商品の一生(生産から破棄)で排出されるCO₂を商品にマークで表示するしくみ。

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード

ボクらは地球に立っている

6年生理科 教科書P.62～67

45分

ねらい

地球の大きさや資源の量を体感し、環境と人間との関わりについて考える。



プログラム例

- ①教室の大きさを地球の表面積として、陸地と海、森の面積、空気や水の量を知る。
- ②地球上のすべての生物の数が、クラスの人数だったらどんな比率になるのかを考える。
- ③生物が減ったとき、他の生物にどのような影響があるかを考える。

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン

※このプログラムは、ホールや体育館などで行うとより効果的です。

放射線ってなんだろう

文部科学省 小学生のための放射線副読本
「放射線について考えてみよう」 P.14関連

45分

ねらい

霧箱による放射線の観察を行い、放射線の性質や人体への影響について理解する。



(霧箱を使って放射線を見る)

プログラム例

- ①霧箱を使って自然界にある放射線を観察する。
- ②放射線の正体、性質について説明を聞く。
- ③発電や医療などへの放射線の利用や、放射線の人体への影響などを知る。

学校で準備するもの

PC、プロジェクター、スクリーン

※ここに掲載したのは活用例です。学校の実情に合わせて適宜プログラムを変更できます。また、メニュー以外の達人の派遣もたくさん用意しています。

連絡先：秋田県環境管理課 (018-860-1571)

こんな派遣もあります

これまでの「環境の達人」から

大豆のヒミツを探ろう

とうふ作りに挑戦しました。いつもお店から買ってきただけだったので、自分たちでもできるとは思いませんでした。とてもおいしかったです。



地球環境について調べよう

温暖化ガスを減らす工夫について教えてもらいました。

一つ目は、「ふろしき」をエコバッグに変身させるものです。折って結んで、とても簡単にバッグができることに驚きました。二つ目は、古紙を使った入れ物作りです。なかなか難しい折り方に、四苦八苦しましたが、休み時間に友だちから教えてもらったりして楽しい時間を過ごしました。



エコの達人になろう

いつも何とも思わずに生活している中では、地球温暖化を防ぐために自分達でできることがたくさんあることがわかりました。家庭を写した自分の身長よりも大きなパネルを見ながら、自分のお家のことと比較しながら考えました。見ないときにもテレビをつけている、誰もいないのに部屋に電気がついている、ゴミ箱にたくさんの紙が入っている、など気づくことがたくさんありました。



夏休み親子環境学習

小学生とその保護者が、夏休み中、湯の台・小方角沢湿原へ行き、日本最小(体長約18mm)のトンボであるハッチョウトンボやとてもめずらしいオゼイトンボを観察してきました。また、サギソウ、モウセンゴケ、キンコウカ、ミズゴケなどの湿原植物も数多く見られました。豊かな自然が身近な場所にあることに驚きました。



ろうそく作りに挑戦

結婚式場などで残ったろうそくのかけらを材料にして、オリジナルのろうそく作りに挑戦しました。

かけらをなべで熱し液状にしてから、しんを取りのぞきました。クレヨンをけずり、ろうに加えてかき混ぜ、色をつけました。星やハート形などの好きな器に入れて少しさまして、しんを入れました。30分ほどで、緑や赤のカラフルな手作りろうそくのできあがりです。



未来の子どもへ伝えるストーリー

環境の話聞いてから、外に出て自然のものを3つ探しました。グループになり、画用紙に集めたものを貼り付けながら、ストーリーを考えました。未来から現代にタイムスリップし不足している食料を求める「地球を守ろう」、新しく発明された未来のロボットは自然のものが使われているという「ドラえもん」、など子どもならではの発表がありました。



対象となる講演会・学習会等

- 原則として参加者が20名以上のもの。
- 同一の主催者に対し、同一年度において2回までの派遣となります。
- 実施日の1ヶ月前まで、申し込みください。

こどもエコクラブ交流会

平成24年10月8日、秋田市太平山自然学習センター「まんたらめ」を会場に「こどもエコクラブ交流会」を開催しました。この交流会は、秋田県と秋田市が協力して計画しました。当日は、さわやかな秋晴れの晴天に恵まれ、みんな体全体で自然を感じ、そこから得た感動を参加者全員で分かち合うことができました。



ネイチャーゲーム
「ポイズンリムーバー」

助け鬼のようなゲームです。1年生から5年生まで汗をかきながら夢中で走り回りました。これで、とても仲良しになりました。



ネイチャーゲーム
「目かくしトレイル」

森の中に張られた1本のロープを頼りに、視覚以外の感覚を使いながら探検します。特に、お母さんたちに人気でした。



ネイチャーゲーム
「カモフラージュ」

道のわきに目立たないように置かれた人工物を無言で注意深く探します。全部見つからないとちょっと悔しいので、大人も目を皿のようにして探しました。



ネイチャーゲーム
「フィールドビンゴ」

「いいにおいのする葉」「抱えきれないくらい太い木の幹」など自然をテーマにしたビンゴゲームです。一生懸命探し回りました。



自然観察

スギは「まっすく」から、フキは「拭く」から名前がついたそうです。植物の名前は「いわれ」を覚えると楽しいとのこと。



ペン立てづくり

台になる木に、木の実や小枝などを取り付け、オリジナルのペン立てをつくりました。親子で協力して作りました。

午前中は4つのネイチャーゲームをしました。1つのゲームが終わった後に、自然の仕組みや自然に関する知識を、楽しい雰囲気の中で知ることができました。また、まんたらめのフィールドでは山栗が落ちており、お土産がたくさんできました。

午後は自然観察と工作です。自然観察は、ジョロウグモのオスは目立たないが巣の中に必ずいることなど、興味あるエピソードを聞きながら、五感をフルに使った観察会でした。

自然のものを使った工作では、思い思いに木の実や小枝などを工夫して取り付け、夢中になりました。全員が作品を作り終わったところで、自分たちが作った作品を紹介しあいました。

ネイチャーゲームについての 問い合わせ先

秋田県シェアリングネイチャー協会
事務局長 近藤千晴
TEL : 090-2957-0752
Mail : chifunon@cna.ne.jp

自然観察・クラフト(工作)についての 問い合わせ先

秋田県森林学習交流館 プラザクリプトン
インストラクタールーム
TEL : 018-882-5009

平成24年度に環境分野で 受賞した学校を紹介します

第13回 環境美化教育優良校等表彰

環境美化教育の奨励及び地域の環境美化の啓発を目的に、全国の環境美化教育優良校の表彰を10年以上にわたり実施しています。環境教育への取組が年々重要になる中で、全国41都道府県から、環境美化教育に独創的かつ熱心に取り組み、地域の環境美化に大きく貢献している優秀な小・中学校が多数推薦されました。審査の結果、横手市立山内小学校が、優良校・協会会長賞を受賞しました。



横手市立山内小学校 (全校児童156名)

この活動は今年で13年目を迎え、山内中学校と合同で、両校のPTA会員も参加し、児童生徒・保護者・地域住民が一体となってリサイクル活動に取り組んでいます。収益金を活用して地域の高齢者施設に車いすを寄贈するなどの福祉活動も行われており、地域に根付いた教育活動としてその意義が大きいことが高く評価されました。

東北・水すまし賞

「東北・水すまし賞」は、東北地方における小・中・高校を対象にして、良好にして快適な水環境の創造と保全に貢献する優れた活動をした個人・学校を表彰しています。

今年度は、東北全体で4校の受賞校がありましたが、秋田県からは由利本荘市立矢島小学校と湯沢市立横堀小学校ネイチャークラブの2校が受賞をしました。



由利本荘市立矢島小学校

活動テーマ「子吉川のひみつをさぐろう!」

毎年4年生が中心になって、水生生物調査、水質検査などを行い、調査結果を冊子にまとめています。10年にわたるしっかりした調査に基づいたデータで地域の環境の理解を深めたことが高く評価されました。



湯沢市立横堀小学校ネイチャークラブ

活動テーマ

「川はだれのもの? ふるさとの川 役内川を守ろう!」

平成22年度から、「ハチドリの一とすく運動」として、環境保全活動に全校で取り組んでいます。調査内容がしっかりしており、地域への情報発信もなされ、その活動の地域への広がりも十分であることが高く評価されました。



平成24年度 登録クラブ一覧

No.	クラブ名	会員数	サポーター数	市町村名
1	マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブ	28	8	秋田市
2	ひろおもてエコクラブ	18	7	
3	せいれいエコクラブ(聖霊幼稚園)	76	11	
4	第二ルンビニ園ちびっこクラブ(第二ルンビニ園)	95	9	
5	かもしか戦隊エコレンジャー	2	1	
6	浜田小エコクラブ(秋田市立浜田小学校)	93	14	
7	戸島小学校エコクラブ(秋田市立戸島小学校)	79	11	
8	ハッピー☆ハッピー	4	2	
9	岩見三内小・中学校エコクラブ(秋田市立岩見三内小・中学校)	38	1	
10	若駒学童クラブ	53	1	
11	イオン土崎港店チアーズクラブ (カモメ)	13	2	
12	あきたみどりフレンド	30	4	
13	旭川小学校3年部(秋田市立旭川小学校)	92	3	
14	秋田市立秋田東中学校科学部	18	1	
15	秋田大学教育文化学部附属中学校情報・科学部	21	1	
16	四ツ小屋小学校4年(秋田市立四ツ小屋小学校)	62	2	
17	さくら冒険王	27	3	
18	保戸野児童館まめまめ隊	75	2	
19	旭北児童館こどもエコクラブ	59	2	
20	港北児童センター	100	3	
21	泉児童センター	85	3	
22	川尻児童センター	100	2	
23	桜小学校こどもエコクラブ(秋田市立桜小学校)	920	59	
24	土崎児童館	40	4	
25	いずみっこエコクラブ(秋田市立泉小学校)	95	3	
26	太平ワールドクリーンズ(秋田市立太平小学校)	13	1	
27	能代市立第四小学校4年エコキッズ	93	4	能代市
28	朴瀬小学校エコクラブ(能代市立朴瀬小学校)	17	1	
29	横手チアーズクラブ	30	5	横手市
30	雄物川北小学校エコクラブ(横手市立雄物川北小学校)	18	2	
31	鳳中学校科学部(横手市立鳳中学校)	5	1	

No.	ク ラ ブ 名	会員数	サポーター数	市町村名
32	増田中学校(横手市立増田中学校)	12	2	横手市
33	山内小学校5年エコクラブ(横手市立山内小学校)	28	1	
34	花岡小エコクラブ(大館市立花岡小学校)	15	1	大館市
35	大館南こどもエコクラブ(大館市立大館南小学校)	43	4	
36	たしろこどもエコクラブ(大館市立たしろ保育園)	138	20	
37	雪沢小学校こどもエコクラブ(大館市立雪沢小学校)	5	1	
38	五里合小4年エコクラブ(男鹿市立五里合小学校)	12	1	男鹿市
39	横堀小学校ネイチャークラブ(湯沢市立横堀小学校)	12	2	湯沢市
40	ボーイスカウト秋田第26団 花輪	15	7	鹿角市
41	直根小学校エコクラブ(由利本荘市立直根小学校)	11	1	由利本荘市
42	西目小学校シーガールエコクラブ(由利本荘市立西目小学校)	330	14	
43	東由利小学校エコクラブ(由利本荘市立東由利小学校)	95	9	
44	飯田川小学校エコクラブ(潟上市立飯田川小学校)	210	30	潟上市
45	大曲小学校自然大発見クラブ(大仙市立大曲小学校)	22	1	大仙市
46	マックスバリュー東北大仙チアーズクラブ	9	3	
47	角間川小学校エコクラブ(大仙市立角間川小学校)	84	17	
48	藤木小エコクラブ(大仙市立藤木小学校)	75	12	
49	どれみ保育園エコクラブ(どれみ保育園)	16	2	
50	太田ひがしっ子エコクラブ(太田ひがし幼稚園)	42	12	
51	ちびっこエコレンジャー“イースト!”(大曲東保育園)	88	20	北秋田市
52	鷹巣南小学校エコクラブ(北秋田市立鷹巣南小学校)	87	19	
53	合川小学校エコクラブ(北秋田市立合川小学校)	76	13	
54	平沢小サイエンスクラブ(にかほ市立平沢小学校)	19	2	にかほ市
55	金浦小理科クラブ(にかほ市立金浦小学校)	10	1	
56	仙北市立角館中学校科学部	15	1	仙北市
57	藤里小エコクラブ4年(藤里町立藤里小学校)	27	2	藤里町
58	藤里小エコクラブ5年(藤里町立藤里小学校)	19	2	
59	藤里小エコクラブ6年(藤里町立藤里小学校)	29	2	
60	五城目小学校エコクラブ(水生生物調査隊, 自然科学クラブ)(五城目町立五城目小学校)	25	6	五城目町
61	井川小学校自然観察クラブ(井川町立井川小学校)	12	4	井川町
62	美郷中学校総合的な学習の時間「成瀬川水質調査班」(美郷町立美郷中学校)	10	2	美郷町
合 計		3,990	387	

市町村別, 登録番号順 平成25年2月28日現在



					-					
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

クラブ名				メンバー人数 (子ども)	人	
				サポーター人数 (大人)	人	
メンバー学年内訳 <small>※年齢・学年は年度当初(4月)時点をご記入ください。 ※高校生記入欄は、同年齢のメンバーも各学年にあてはめて、記入してください。 サポーターとしても登録できます。</small>	幼児 (3歳)	人	幼児 (4歳)	人	幼児 (5歳)	人
	小学 1 年生	人	小学 2 年生	人	小学 3 年生	人
	小学 4 年生	人	小学 5 年生	人	小学 6 年生	人
	中学 1 年生	人	中学 2 年生	人	中学 3 年生	人
	高校 1 年生	人	高校 2 年生	人	高校 3 年生	人
					JEC活動年数	
氏名				年目		
住所 〒				※今年をはじめて登録する場合、1年目と記入してください。		
TEL () - FAX () -						
E-mail						
ツール <small>※クラブ単位でいずれか1つを選び☑をしてください</small>				活動記録シート&ニュースレター (<input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要)		
クラブの種類 <small>※該当するものに☑をしてください。</small>				<input type="checkbox"/> 近所や地域のお友達 <input type="checkbox"/> 家族・親戚 <input type="checkbox"/> ボーイ・ガールスカウト <input type="checkbox"/> 子ども会 <input type="checkbox"/> 児童館や公民館のクラブ <input type="checkbox"/> 自治体の募集 <input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園 (<input type="checkbox"/> クラス・ <input type="checkbox"/> 全園) <input type="checkbox"/> 学校の (<input type="checkbox"/> クラス・ <input type="checkbox"/> クラブ・ <input type="checkbox"/> 委員会・ <input type="checkbox"/> 学年・ <input type="checkbox"/> 全校 → 学校名:) <small>*総合学習としての実施についても記入してください。(<input type="checkbox"/> YES・<input type="checkbox"/> NO) *異クラス混合の場合は学年へ、異学年混同は全校へ☑印をしてください。</small> <input type="checkbox"/> その他 ()		

大人の方へ

● **メンバー・サポーターになると**

- ◇メンバーには環境記録シート、ニュースレターなどの活動役立つツールが、代表サポーターには応援マニュアルなどが届きます。(ツールは、希望に応じてクラブ単位で選択できます。)
- ◇メンバーズバッジは販売しております。ご希望のクラブまたは市区町村事務局はウェブサイトをご参照ください。

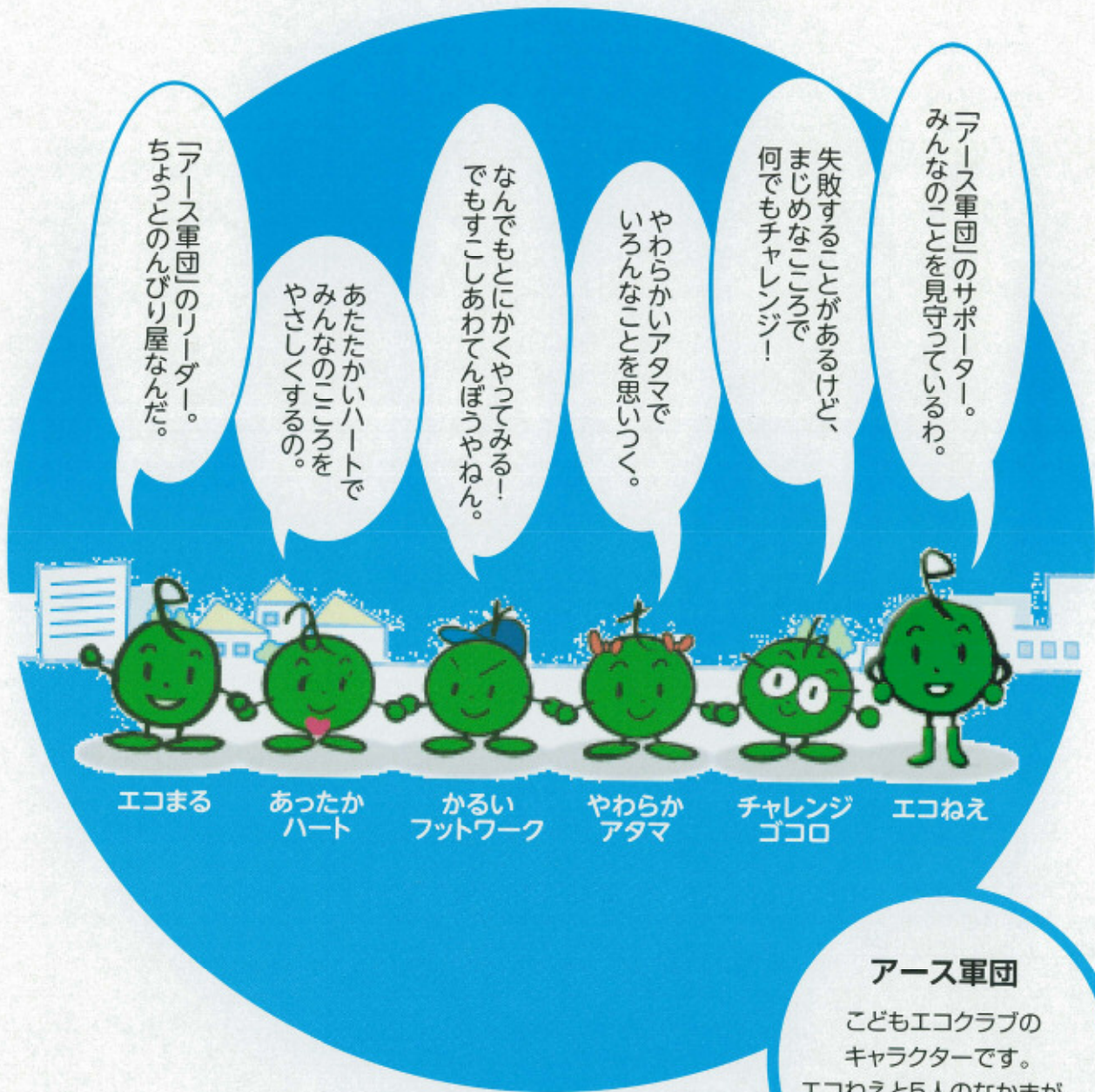
● **注意事項**

- ◇活動中の第三者への事故に対応するため、クラブの登録と同時に、全国事務局がメンバー・サポーターを対象とした賠償責任保険の加入手続きを行います。名簿の提出はメンバー・サポーターともに不要ですが、賠償責任保険の手続き上、必ずクラブで備えてください。
- ◇サポーターが複数のクラブを担当している場合には、ツールの重複を避けるため、2つ目以降のクラブでは、サポーター人数としてカウントしないください。
- ◇クラブ名、代表サポーターの連絡先、メンバーの人数、クラブの解散等、登録内容を変更する場合は、こどもエコクラブ全国事務局または市区町村事務局に変更・解散届を提出してください。

● **個人情報保護方針について**

(財)日本環境協会(以下、当協会という。)は、個人情報を尊重し、個人情報保護に関する法令及びその他関係法令を遵守するとともに、当協会の個人情報保護基本方針に則って個人情報を取り扱います。

1. **個人情報の利用目的**: 当協会は、こどもエコクラブ事業(以下、本事業という。)を行うにあたり収集した個人情報を、ニュースレターや本事業の支援にかかる環境関連情報の資料等の配布、賠償責任保険等の運用上必要な情報管理、サービス等改善のための事業(アンケート調査を含む。)の実施、新たなサービスや環境関連情報の発信、その他本事業の実施に付随する業務を行う目的の範囲内で利用します。なお、利用目的の達成に必要な範囲で第三者に業務委託することがあります。ただし、必要な項目を正しくご記入いただけない場合、適切な対応ができないこともございますのでご了承ください。2. **個人情報の共同利用**: 収集した個人情報は、本事業の地方事務局として登録した都道府県及び市区町村と上記1.の利用目的においてのみ共同して利用します。3. **個人情報の管理**: 収集した個人情報の漏洩、滅失、毀損または改ざんの防止、その他収集した情報の適切な管理を行います。また、事務局従業員及び業務委託先等に対して、個人情報の管理の指導と適切な監督を行います。4. **個人情報の訂正・削除・開示**: 収集した個人情報は、ご本人から登録されている個人情報について訂正・削除・開示の請求があった場合は、迅速に対応します。第三者から開示の請求があった場合は、ご本人の承諾がない限り開示しません。ただし、個人情報保護法第23条第1項、第4項およびその他の法令の規定に基づく場合は、この限りではありません。情報の訂正・削除・開示を希望される場合は、当協会こどもエコクラブ全国事務局までご連絡ください。



「アース軍団」のサポーター。
みんなのことを見守っているわ。

失敗することがあるけど、
まじめなところで
何でもチャレンジ！

やわらかいアタマで
いろんなことを思いつく。

なんでもとにかくやってみる！
でもすこしあわてんぼうやねん。

あたたかいハートで
みんなのこころを
やさしくするの。

「アース軍団」のリーダー。
ちよつとのんびり屋なんだ。

エコまる

あったか
ハート

かるい
フットワーク

やわらか
アタマ

チャレンジ
ゴコロ

エコねえ

アース軍団

こどもエコクラブの
キャラクターです。
エコねえと5人のなかまが、
地球の環境を守るために
活躍しています。

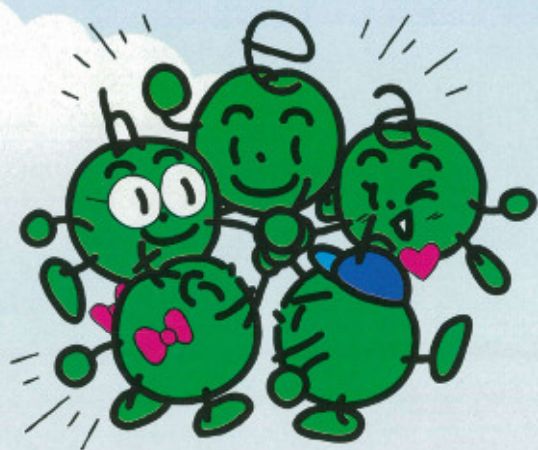
表紙の写真について

烏海山は、秋田県と山形県に跨る標高 2,236m の活火山です。秋田富士（あきたふじ）とも呼ばれており、日本百名山・日本百景の1つとなっています。5月頃には、「烏海高原菜の花まつり」が開催され、多くの人を訪れています。

こどもエコクラブ憲章

1. 私たちは、生命を生み、育んでくれる『水と緑の惑星・地球』を愛し、未来に引き継ぎます。
2. 私たちは、自分たちの暮らしや身のまわりの環境に関心を持ち、地球とともに生きていくための努力を続けます。
3. 私たちは、世界中のなかまと、手をたずさえて、地球を守るために活動を続けます。

私たちは、夢を忘れずに、夢を追い続けます。



秋田県こどもエコクラブ事務局

秋田県生活環境部 環境管理課 調整・環境企画班

〒010-8570 秋田県秋田市山王4-1-1

TEL 018-860-1571

FAX 018-860-3881



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷時の紙へリサイクルできます。

この冊子は1,000部印刷し、1部168.00円です。